

全国学力・学習状況調査結果

文部科学省は、小学6年と中学3年を対象に実施した平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。同調査は、国語・算数（中学は数学）・理科の3教科の学力テストで、それぞれ知識に関して出題するA（基礎）と活用に関して出題するB（応用）の2部門を実施しました。

本町小中学校の結果は、全国平均と比較すると以下のとおりとなりました。

教科	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
和寒小学校	上回っている	上回っている	上回っている	上回っている	上回っている

教科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
和寒中学校	上回っている	上回っている	下回っている	下回っている	ほぼ同値

【国語】

小学校国語AとBの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の平均正答率は、Aの「読むこと」で全国とほぼ同値になったものの、その他はA Bともに全国を上回りました。一方、中学校国語AとBの平均正答率はA Bとも全国を上回りました。

【算数・数学】

小学校算数AとBの「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の平均正答率は、Aの「数と計算」「数量関係」で全国と同値になったものの、その他はA Bともに全国を上回りました。一方、中学校数学Aは平均正答率で、Aの「量と測定」「数量関係」、Bの「図形」「数量関係」は全国と同値になったものの、総合的には全国を下回りました。

【理科】

小学校理科の「物質」「エネルギー」「生命」「地球」の平均正答率は、全て全国を上回り、「知識」の枠組みでは9割を超える正答率でした。一方、中学校理科の均正答率は、全国と同値或いは上回りました。



【児童質問紙・生徒質問紙】

小学校児童質問紙では「家で学校の宿題をしている」や「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「地域行事に参加している」と回答した児童の割合が全国を上回りました。しかし、読書の時間が少なく、テレビを見たり、ゲームをしたりする時間が長い傾向にありました。

中学校生徒質問紙では「自分にはよいところがある」「学校の規則は守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけない」「地域行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した生徒の割合が全国を上回りました。しかし、将来の夢や目標を持って学校の授業の予習や復習、自分で計画を立てて勉強する割合が比較的低い結果となりました。読書や新聞を読むことについても同様でした。



この調査結果を受けて、各学校ではさらに分析を進め生活習慣や学習習慣の見直しを図り対応をしています。また、一日当たりの勉強時間や読書の時間についても、家庭と一層の連携強化を図り改善をしていくこととしています。（調査結果は道教委のホームページで公開されています）